

算数科学習指導案（略案）

平成 23 年 2 月 4 日（金） 2 校時
 小学部 算数C グループ 男子 3 人 計 3 人
 場 所 職 員 室 後 方
 指 導 者 内 倉 広 大

1 題材 「2とび・5とび」

2 本時の実際（10/18）

(1) 全体目標

- タイルの操作を通して、（5の倍数+余り）個の物を5とびで数えることは、速くて正確であるというよさに気づき、30までの数を数えることができる。

(2) 個人目標

児 童	個 人 目 標
○児 （3年，男）	○ 数直線を使って、5とびを「5，10，15，20…」のように連続量としてとらえ、5とびで数えることが数えやすいことに気付くことができる。
Q児 （5年，男）	○ 5とびで（5の倍数+余り）個の数を数え、考え方を説明することができる。
P児 （5年，男）	○ タイルを使って、5とびで（5の倍数+余り）個の数を正確に数えることができる。

(3) 指導及び支援に当たって

学習活動の概要と授業環境の工夫

本グループの児童は前時までに、2とびや5とびを使って10の束を作り、より大きな数を数える学習を行ってきた。その過程において、まとめて数えることが速く、そして正確に数えられるという便利さに気づきつつある。また、同じ数に分けてそろえる活動（2個ずつ、5個ずつ）自体が、その規則性の心地よさを引き出し、声に出して数えることや具体的な操作の向上につながってきている。

本時では、2とびでも5とびでも数え切れない場合について考える学習を行う。「向かう」過程においては、それぞれの考えを発表する場面を設ける。自分の考えを表したり説明したりすることで、「できた・わかった」を実感でき、自己効力感へとつながると考える。さらに、教師や友達からの称賛や賛同により、実感がさらなる確信へとつながると考える。「かかわる」過程においては、5とびを使って課題に取り組む。学習課題については、一度具体的な操作活動を通して自分で考えてから発表する場面を設け、友達の考え方と照らし合わせることができるようにする。その後、個別に課題に取り組む、考えを深めていくことができるようにする。

教材・教具とのかかわりについて

- ・ 半具体物に置き換えて考える際には、これまでに使い慣れてきたマグネットタイルを用い、容易に扱うことができるようにする。
- ・ 5のまとまりを一つの物としてとらえることができるように、タイルケースを用いて一くくりにすることができるようにする。
- ・ 5とびを「5，10，15，20…」のように連続量としてとらえ、また「…15，20，21，22」のように数え足しを行うことができるような手掛かりとして数直線を用いるようにする。

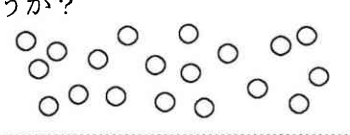
人（友達や教師）とのかかわりについて

- ・ 児童の考えを説明する場を設定する。このことにより、自分の考えと友達の考えを照らし合わせ、その相違や互いの考えのよさに気付くことができるようにしたい。
- ・ 教師は、児童が十分な思考・判断する時間を設け、その主体的な考え方を大切にし、児童自身の考えをまとめることができるように支援を行うようにする。

自分とのかかわりについて

- ・ 具体的な操作活動を説明したり、プリントに思考の過程を書き表したりすることで、どのように学習が進んだかを振り返ることができるようにする。
- ・ 個別の課題や発表場面で、友だちや教師から称賛を受けたり、正解であることを伝えられたりすることで、「できた・わかった」ことを実感として味わうことができるようにする。

(4) 実際

	主な学習活動	指導及び支援の手だて	資料・準備
向かう (10分)	<p>1 始まりのあいさつをする。</p> <p>2 前時の学習を振り返り、本時の学習について知る。 (1) 5のまとまりを使った課題に取り組む。</p> <p>(2) 5のまとまりを作る課題に取り組む。</p> <p>(3) 本時の学習について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>23個はどのようにして数えたら簡単であるか考えてみよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返りでは、課題設定を二つ行う。初めは、もともと5個を一くくりにした具体物を提示し、個数を数えるようにし、5個をまとまりとして見るができるようにする。次の課題は、くくられてない状態で課題を提示し、5のまとまりを作る活動を踏まえてから数えるようにする。 説明の際には、前時まで用いた教材を準備しておき、場面を想起できるようにする。 問題を提起した後、半具体物を用いて個々に考える時間を作る。 23は「5とびで数え切れない」ということに気付くことができるように発問をするようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線 マグネットタイル 5個くくりのケース
かかわる (25分)	<p>3 いろいろな数え方をみんなで作え、発表し合う。 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1つずつ数える 2とびで数える 5とびで数える <p>4 5とびの課題に取り組む、考え方を発表し合う。 (課題1)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>赤、青、黄、緑、茶色のかごにはそれぞれみかんが5個ずつ入っています。橙色のかごには3個入っています。全部でいくつのみかんがあるでしょうか？</p> </div> <p>(課題2)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>全部でいくつあるでしょうか？</p>  </div> <p>5 個別課題でいろいろな課題に5とびで取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童の考えを大切に、自分の考えを表すことの楽しさを味わうことができるようにする。 ○児、Q児は、数直線を使い、まとまりを連続量として数えることができるようにする。 より大きなまとまりでとらえると簡単に、正確に数えることができたことを導き、5とびのよさを想起することができるような言葉掛けをする。 課題1の提示の際には、場面設定や5のまとまりがイメージしやすいように絵等の視覚教材を用いる。個々の操作活動では半具体物としてマグネットタイルを用いるようにする。 課題2のプリント上の半具体物を数える際には、5個ずつ線で囲んでから数えるようにし、自分の考えを振り返ったり、説明したりすることができるようにする。 5とびで数えても正しい答えであるかどうかを確かめるため、一つずつみんなで数えあげを行う。 個別の課題は、○児とQ児は50までの数、P児には100までの数を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵 課題用紙 マグネットタイル
見つめる (10分)	<p>6 互いに数を確認する。</p> <p>7 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>5とびで数え切れない数も、5とびを使うと数えやすい。</p> </div> <p>8 終わりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童による採点の数は時間により調整し、残りは教師が行うようにする。 採点後は互いに認め合い、また間違った課題については教師を交えて考え直すようにする。 まとめでは、「5とびは便利であること」の気付きを子どもたちの言葉で確認することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 赤ペン

(5) 評価

- タイルの操作を通して、(5の倍数+余り)個のものを5とびで数えることは、速くて正確であるというよさに気付き、30までの数を数えることができたか。